

京の商いと祇園祭を支えるまち

認定理由

祇園祭の山鉾が四方に見え、「鉾の辻」とも称される四条室町。また、下京の中核と認識され、「札の辻」或いは「四条町の辻」と呼ばれた四条新町。京都が商工業都市として発展する中心的役割を果たしてきたこれらの界わいは、商いのまちとして歴史を刻み続け、応仁の乱により中断した祇園祭も町衆の手で再興を遂げた。ひと、もの、情報が交流し、商いと住まいが共存するこの地には、自治の気風と文化芸術に親しむところが培われてきた。いまま京都の中心として賑わい、数百年に亘る伝統とそれを受け継ぐところが息づいている。

主な構成遺産

暮らしをはぐくみつなぐまち



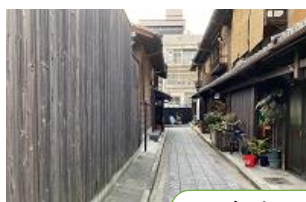
山鉾町

中世以降、京の中心地のひとつとして栄えた下京は、祇園祭を支え、再生と復興を担うとともに、人・もの・情報の交流の場となっている。



京町家

京町家は京都の風土に適した建築様式で、長い歴史の中で様々な暮らしの知恵や工夫とあいまって発展してきた。山鉾町の景観をつくりあげている。



路地

京町家が並ぶ細い路地。路地は職人の仕事場や住まいが並び、生活が営まれている。四条通から綾小路通まで通り抜ける膏薬辻子などがある。



町会所

各町の自治の拠点となる建物で、奥の蔵には山や鉾の部材を収納し、祇園祭のときには町会所の前に山や鉾を建てる。地藏盆やお火焚が行われる町もある。



六角堂(MAP①)

聖徳太子の創建と伝わる。本堂前には京都の中心に位置するといわれる「へそ石」がある。下京の町衆の心の拠り所となり、下京の自治の中心となった。いけばな発祥の地とされる。市指定有形文化財。

文化と商いのまち



室町通

京都経済センターが立地する四条室町は京都の繊維産業の振興拠点であり、この界わいは京都の商いを育ててきた。



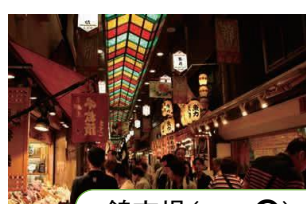
新町通

新町通は室町通と並んで京都の有数の和装卸問屋街であり、古くは豪商の茶屋四郎次郎邸などもあった。



市中の山居

室町時代末、富裕な町衆のうち「下京茶湯者」と呼ばれた人々の間では町の中に草庵を持つことを「市中の山居」と言い、下京で閑居を求め、草庵を構えた。堺の茶人・武野紹鷗もその一人。



錦市場(MAP②)

「京の台所」として、京都の旬の食材や京野菜、京漬物など様々な食料品が並ぶ。昭和22年(1947)から祇園祭の神輿渡御に奉仕。伊藤若冲生誕の地。



山鉾巡行

各山鉾町により行われる祇園祭の行事。建てられた山鉾が、前祭(17日)と後祭(24日)にそれぞれ、都大路を祓い清めるために市内を巡行する。ユネスコ無形文化遺産。



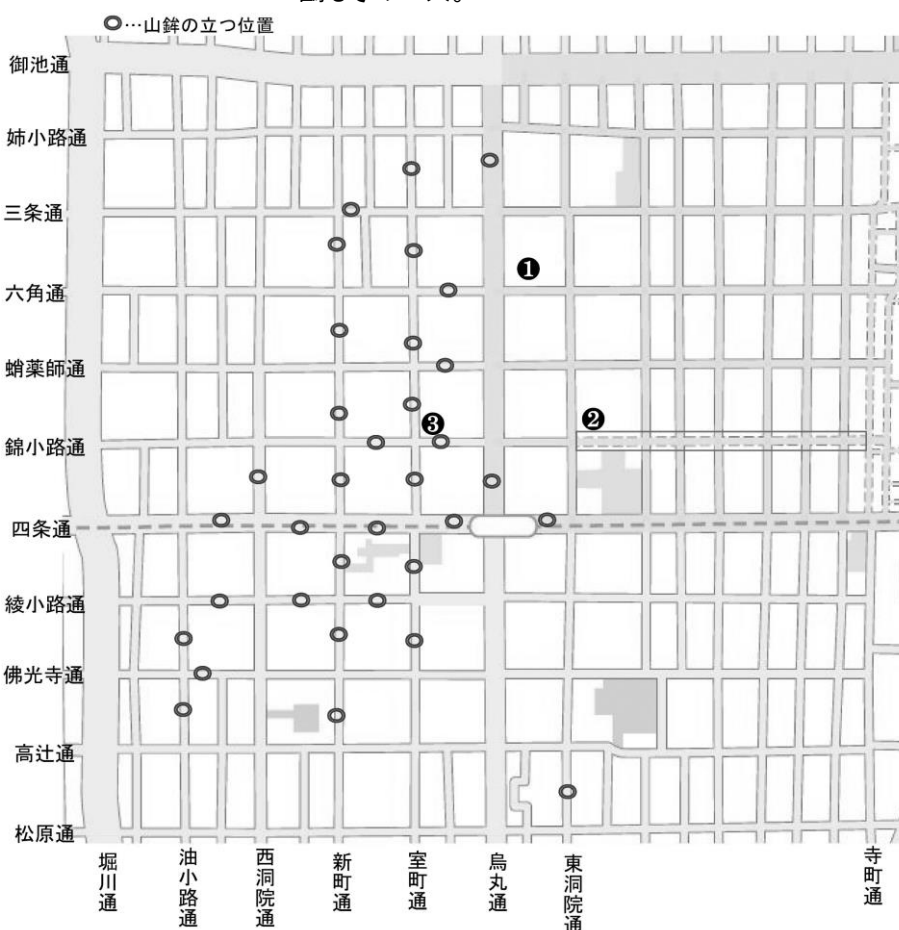
京都芸術センター(MAP③)

古くから呉服問屋で栄え、釜師や画家も暮らした明倫学区。同学区にある京都芸術センターは旧明倫小学校を活用し、現在は京都の文化芸術拠点として中心的な役割を担う。国登録有形文化財。



円山・四条派

近代にいたるまで京都画壇に大きな影響を及ぼした円山・四条派。円山応挙邸址や四条派を興した呉春宅址には、それを示す碑が立つ。



宵山・屏風祭

巡行(17日と24日)の直前の晩を宵山といい、山鉾町は人々にぎわう。主に宵山の時期に屏風祭りは行われ、一部の家で表の格子を外して秘蔵している屏風や美術品、調度品などを飾る。



懸装品

山鉾を飾る装飾品で、町衆の経済力を象徴するかのようには豪華であり、また多様な伝統的技術が組み合わさって造りだされている。美術工芸品でもある懸装品を飾った山鉾は、「動く美術館」とも評される。

注:上記の構成遺産は一例で、上記以外にも市内には多くの京の商いと祇園祭を支えるまちにまつわる文化遺産がある。